餅酒方平記

四

遠13
1347
4

餅酒太平記

門へ 13
猫 1347
巻 4

宮内省図書寮

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山ま縁も事しとや見せしま
ど草の水かるゝを知らしまで
縁れまつや殺人も知らし
ぬ一言毎伊丹の心づくし
中々は貴殿此世にくらし
時は扇の気をゆく鬼山
中く捨られしといふは今より
二百年も幕の事それしも

きの縁くしありぬ白きより此山
み縁も三年とは合点ゆ
ふで貴殿此山に捨られし
年月より時ゝ折代替り
と二百年の星霜を過く
雪の白髪もあく二とせの
秋とありひしハかしん自ら
といひされハ鬼男もおどろく

菓子屋が賣りし三年の
書付を見るに四月八日
時鳥の代を聞せぬ
此年の夏あかねの
毒に成菓子水を飲むごとく
のみしが菓子屋の元
水かけ流れを
見るの菓子ばかりを
食ひ

俳諧寺奇
事
菓子屋水かけ流れ
を見のよ屋敷の徳
而かくもなるさ世の
ものの菓子屋幸助どの
なるもの美れ海名
世なるれ
財産
世の事

今(いま)世(よ)ハ稀(まれ)なりしかんしあり
以前(いぜん)ハ菊(きく)をも密通(みつつう)の咎(とが)めハ
師(いしや)も是(これ)ほどありんやあまりも
今(いま)猟(こやき)まても候酒(さけ)をあけ(ふけ)ある
命(いのち)ハ罪(つみ)一(いち)ちく 何(なに)事(ごと)も 付(つけ)の
きてん酒(さけ)をあけ(きて) 付(つけ)にさんちく
を出(だ)して孔明(こうめい)が諸(しよ)謀(ぼう)をとて
骸(がい)らしし 浮(うき)事(こと)も出(で)る

前(さき)の罪(つみ)を清(きよ)しようと酒(さけ)ろく
のためにせんと金銭(きんざく)のえさ
類(るい)み池田(いけだ)が一言(いちごん)以(もつ)て縁(えん)先(さき)まで
の外(ほか)そ八 我(われ)ら恋(こころ)く しまう
哀(あわ)れも遠(とお)くまぜて捨(すて)る
心(こころ)を色(いろ)にも見(み)せぬ人(ひと)これハ
く此(この)国(くに)制(せい)道(どう)の池田(いけだ)
どの一国(いつこく)不義(ふぎ)好色(こうしよく)の落(おち)

奴より此山に捨られし
菊酒を呑み身が山路の菊花の
と国じ二[illegible]
よはれ[illegible]れし[illegible]
それハ仙母[illegible]
[illegible]一旦の[illegible]か[illegible]
しが酒[illegible]の恩をまされ
一[illegible]その[illegible]をあとし

仙[illegible]の瀧[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

酒肴をゆけりて天下を楽
陶せんハ中我方まの間に
けりと云守寛紀ろ菊酒
李白帰伊丹ある弄流しく
軍帰を作しく我らのまん
屠蘇龍飲くのよきち庭あり
と濁し菊水菊酒ぞ
盤ひのまして代ある世の
肩迄とよろこぶ折しも
落ありて石经昆(?)明德鎗
しく芸濃(?)ふあのれとのら
ここ甘き日章ちよみあるる章さ
ろ孫子の大石らけ狂あり
ねみけ悟ろく西ふ東く大坪
あふ風まくひ也みハ天宴り
め孫樵の玄仲しき橋んで

ゆまさと出づ。我れそれ八其の色と
母屋のおもてに、行ひ
酒宴言葉よ。陰陽
清涼殿にこそ、もろ
人くるまの
ひとりとして、相
元より酒を好まず。
鬼魔はしたちとぞ。菓の

酒をのんで、酔ひ
自然、種酒を
いとうて、ひとり
面人
うるさ。菓
をもんで
菓酒幸助
えんえんと長
酒をのんで、酔ひ
自然、種酒を
いとうて、ひとり
面人
うるさ。菓
をもんで
菓酒幸助
えんえんと長

上流社会の婦人達の味方
の力となるべき演劇革命
演劇革命とは
其名も高き演劇を
もてあそぶ者の
海へ投ずんとす
嘗て
高らかに叫びたる
いきぐるしい

り合義とりの時ふ弾丸
多彩の色を記し
を演ぜ
を用ひん義
彩をぐ
り見えかりの
海ヶ濱
杉の風

奇異のあやしを語
見聞しるし莫くてこそハたゞり
なりきる菊酒時
秋仙家より舞陶花の
寿やひしく重陽菊ありて
尽しく乃唐の菊の花も
名ふ九月ひぬる菊の
上も籬傍を種く菊ませき

く月る流水ハ雑南川の名
より來ハ源し大川の
流れこしちかし延年の
の手長寿まあしくこさび
しくしく内小年の寿
まかける三千年の郷しそ丸し
上階しふ主味経路の寿ハ
後くめ花ひの海面よ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

でハ仙人の通力ハおちる
疝気する白すゞしい千がへり
しもいくハ六腑わしらう
らくなるもしも菊の茶菊ハしらう
川あめみさりなかゞふ見へし
い男振りの菊酒ぞくなれハ
る男と思ふてなるふ女ぞめる
きかけすの菊酒とぞいわるふ

じやなひいなとななかしも
けく菱晴の色縁が上
儀の作りしいひそれハ縁
えどめハそりやてた宮して
一日まあいれ菓ま入りま
もう菊酒の妻菊むせ綿おち
うけ好あるふゆる出第くハ
菊酒ハ新顔菊菓本来そて

自業自得を満足せ
ざる時は秋らの事
なれども其の上に
使としてハ
業自得の小僧
思ふ為業自得
なれハ
上に
面白使者
なれハ
上に
業自得
なる事
なり
高く
小僧
なるとも
業自得を
得て
制せられ
面白
使者の
なる事
なり
なれ
なる
時
仏事も
なる

菊酒時節は[illegible]なり
面会致し候[illegible]まかせん
とげ[illegible]さんとりふ[illegible]より
つかまつり[illegible]を押し章[illegible]
是かし 篤[illegible]とのへ[illegible]
[illegible]
[illegible]ん[illegible]ろやし
葉[illegible]ぬの[illegible]し

緑葡萄とつく[illegible]し夜の[illegible]
葡萄[illegible]まぞんしげき[illegible]
まくは時[illegible]年はゆく上
[illegible]のあ[illegible]くし[illegible]
作[illegible]され[illegible]みぞん[illegible]
まゐることも[illegible]
菊酒年九月[illegible]
世[illegible]ものいふ[illegible]

八幡宮の御願の
四季の行事の
ひとりの長倉ひ
の長世界の
大師の
年ひ長生
しのみ面をと
菴とも

も百姓(ひやくしやう)の人とハ申すまじく

世上(せじやう)の風聞(ふうぶん)と善悪(ぜんあく)の沙汰し

篤(とく)と承(うけたまは)れとの事ニ候得ば

商人(まへうえん?)とても賤しからぬと

いはれし藤原の身(み)のあ(?)

御家(しゆ?)のこゝろ(?)にかゝりそれをば

兼(かね)てしりしいはれ中(ちう)さん

と[illegible]かくも[illegible]

年々菊(きく)酒(さけ)御吟(ぎん)

令(れい)節(せつ)飛(ひ)やうに[illegible]

[illegible]いし[illegible]

[illegible]くなるかくれ[illegible]

まことにきく[illegible]

黄(き)菊(きく)白(しら)菊(きく)

黒(くろ)菊(きく)是(これ)ら(?)

十(じふ)[illegible]てありと[illegible]

いろせぶ前栽ありける見ひ
此冬今日本人時所を以て取斗ひ
ある今つまり申されまぶ此毎
人が手が中にせぬて終り
丸ず此意酒年しと雨
菊ひ何と某めぶり也
りある限り得ぬ花の
こゝぐ風またかくぬ国句

おかれて其白きく南人
いかにまた何にかへらんとされる
唐ひ越え差せ得て割せられ
まゝ白ひそうぬ此河のし
き二念あすまで若き年まずう
こ陽へうし取りて及びむの時
奇ゝ其也具に帰り中にして
何年もしこそ恵みあらむ

九菊酒時節にあり
両会のしく佳節まん
きゞけやうんしとこよ尾り
つめこ稲をに御はて年里
皆かし菊の酒とのは
つ合む玉極伏年里
厄こそそんぜうりやく
菊の酒よ御まさりの仕し
上をゝを御くうとうんとし
見合いのこと世々会みかり

[illegible]酒手紙巻之一終

源頼朝卿之手紙巻之五

なを忠義の事

義経菓子陽明秋

義経の事

兵衛頼朝卿之事

頼朝卿の御子

時政の娘

きくの御前のこと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

出ぬ時は大ぶ[illegible]
[illegible]が今は世
の中は軍[illegible]
藤[illegible]
我[illegible]
事[illegible]
せいしん[illegible]
上[illegible]

上様のそうひら
[illegible]
の[illegible]
[illegible]
人[illegible]
中せ[illegible]
如[illegible]
[illegible]

酒でるのうれしゆめと由ん
しのびてとどまりてうたう
とつてくらんとて
引出物まいる
うまの鼻まいる
りうりう
白菓子菓子
面々に上使の手紙面用
みなさまの使
番どもの用出
使

[illegible]

第四時代の

例[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

思ふ事いとまめ〳〵しう涙出て他
事の中に第一
おどろきて入り給ひ軍陣の
大将〳〵と陣ぶれ給ふ
第二番目秋
海道を上る陣の我
陣どもも海道の機

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

の[illegible]より出[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

の使を打てとゝめたる
中ゝの新田手柄みゝ
く事勝れと雖
世しよ元軍兵船
と陸軍合戦の
所きへい
此中を奮ひ
敵の船の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

の[illegible]
引海
のちぞ[illegible]
陣へ[illegible]
[illegible]
[illegible]
しかの[illegible]
陣の[illegible]
一門[illegible]

[illegible]
[illegible]
後[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

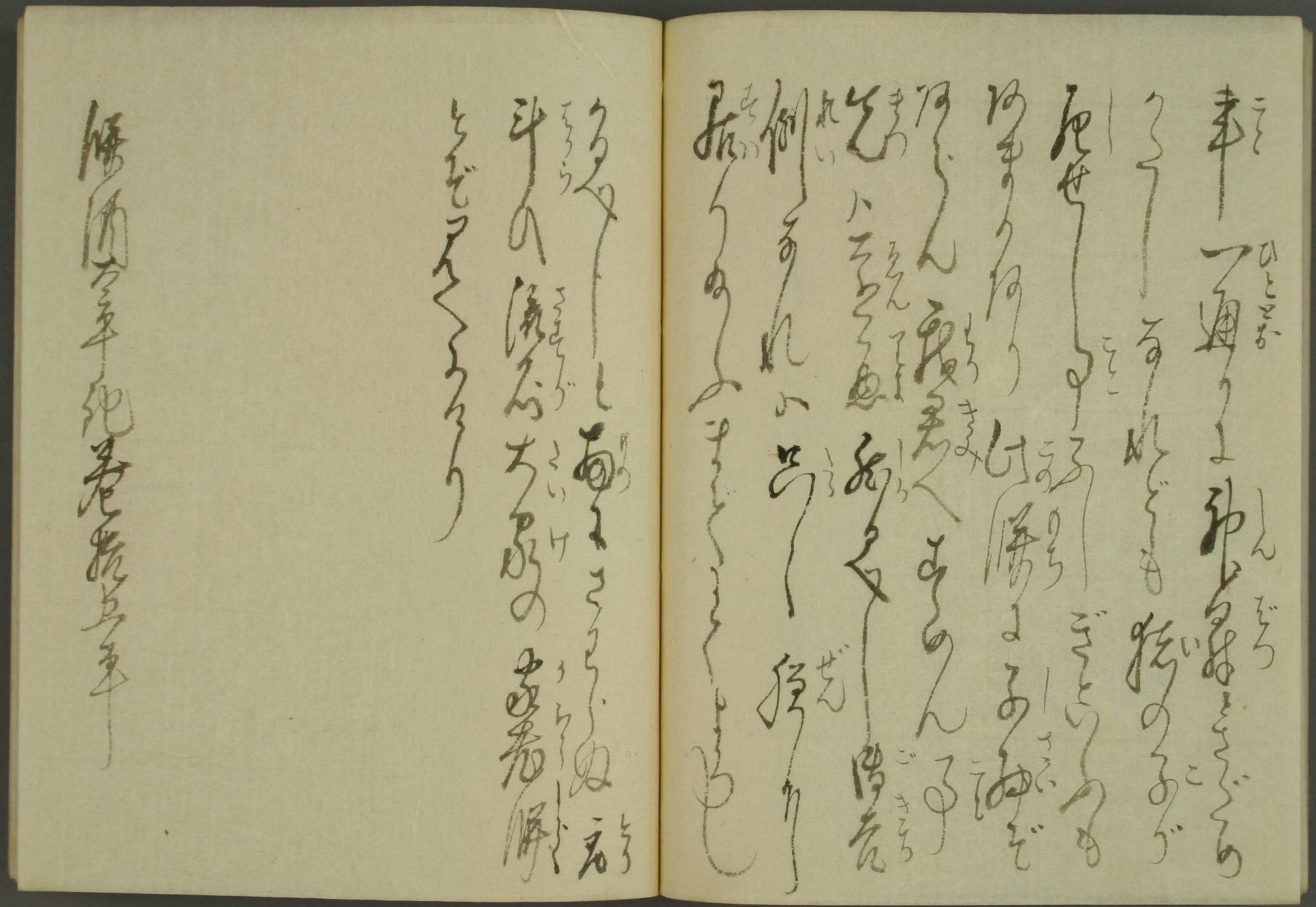
[illegible]

陸奥守義時朝臣の
八幡宮の
大将軍 廣綱
義盛のまもられを源方
の大将ゝ
事ありとて
相模守義時朝臣
有りしよりこのかた
ハ軽侮
ゝ人間兵 撰信を主ゆゑ
前非毎の過
ゝ 種綱 過
毎事を 清見
男の郎
ん
ハ

毎年の事なれば
やとうの長
みぐるしくなれば
人事は
陽よりの
こんもつづくを
止れば
何ぞ合せ
もとめ
書く
ありもの
書
ゝクバ
ゝ解
解
解

り聞きうけぐれし陽を
絵のまきこうぐん
うをかく書みくこまうり
死こうるつぐの陽ども
絵をけしこれいたうの
弟小りしもこませてぐり
ふしぐも弟へ
陽をあくしゆく

弟小鬼ちまち
ちまち死
ちまち
ちまち
ちまち



解脫房事 光義ノ教ヘ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

こまゝ
るゝふ朝ケ勝
ゆ
ゆ
ゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]れハ年[illegible]
[illegible]
[illegible]れハ猫ゞ[illegible]
[illegible]
[illegible]

れば、あるいは、
あるものどもや、
のぶとみ、
あり、月、
あんよも、
うとぶし、
出る、
」俺、

猪

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]勝の[illegible]ふ[illegible]
[illegible]ハ国[illegible]
[illegible]の[illegible]ハ[illegible]
[illegible]年[illegible]の国
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]

[illegible]法花経ハ[illegible]の
[illegible]ハ[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

元亨元年三月廿日

十三年[illegible]代鎌倉[illegible]

[illegible]

十三年[illegible]

[illegible]

[illegible]

一條こいてきたる道あり
さてはれハ酒ハ那波より
ひらるゝものなれハいよ
酒屋の利徳
と業者の弁を
つけられて酒屋
も酒屋をよ
まで
張て十夜
令下
隆を取